

地域共生社会に必要な連携とは何か

【第2部】共生社会づくりに向けた連携の具体例

「障害のある方とともに暮らし続ける社会づくり」

《WAM助成実施団体》

社会福祉法人 楽笑

理事長 小田 泰久

自己紹介・地域紹介

名前:小田泰久(おだやすひさ)

社会福祉法人楽笑 理事長

令和3年1月設立、障害者総合支援法に基づく福祉サービスを中心に事業を行う。

NPO法人start from Miya 理事長

平成19年設立、令和3年、NPO法人楽笑から名称変更。協働のまちづくり、青少年育成イベントを中心に事業を行う。

人口

蒲郡市人口 79,367名

(高齢化率 29.5%)

蒲郡市三谷町人口 12,075名

(高齢化率 32.4%)

産業

農業(みかん・マイクロトマト)

漁業(ニギス・メヒカリ)

繊維業(繊維ロープ・三河木綿)

観光業(温泉・ラグーナ蒲郡)



障害のある方が地域で暮らし続ける事が出来る社会の実現を目指し、障害福祉事業を実施



放課後等デイサービス



就労継続支援B型・生活介護

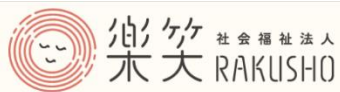


相談支援



短期入所

社会福祉法人楽笑の事業内容の詳しくはWEBで



VISION
ビジョン

SERVICE
サービス

COMPANY
会社概要

TEAM & RECRUIT
求人



SHINKAを**楽**しめ。
SHINKAを**笑**え。

Enjoy SHINKA, Laugh SHINKA.

VISION

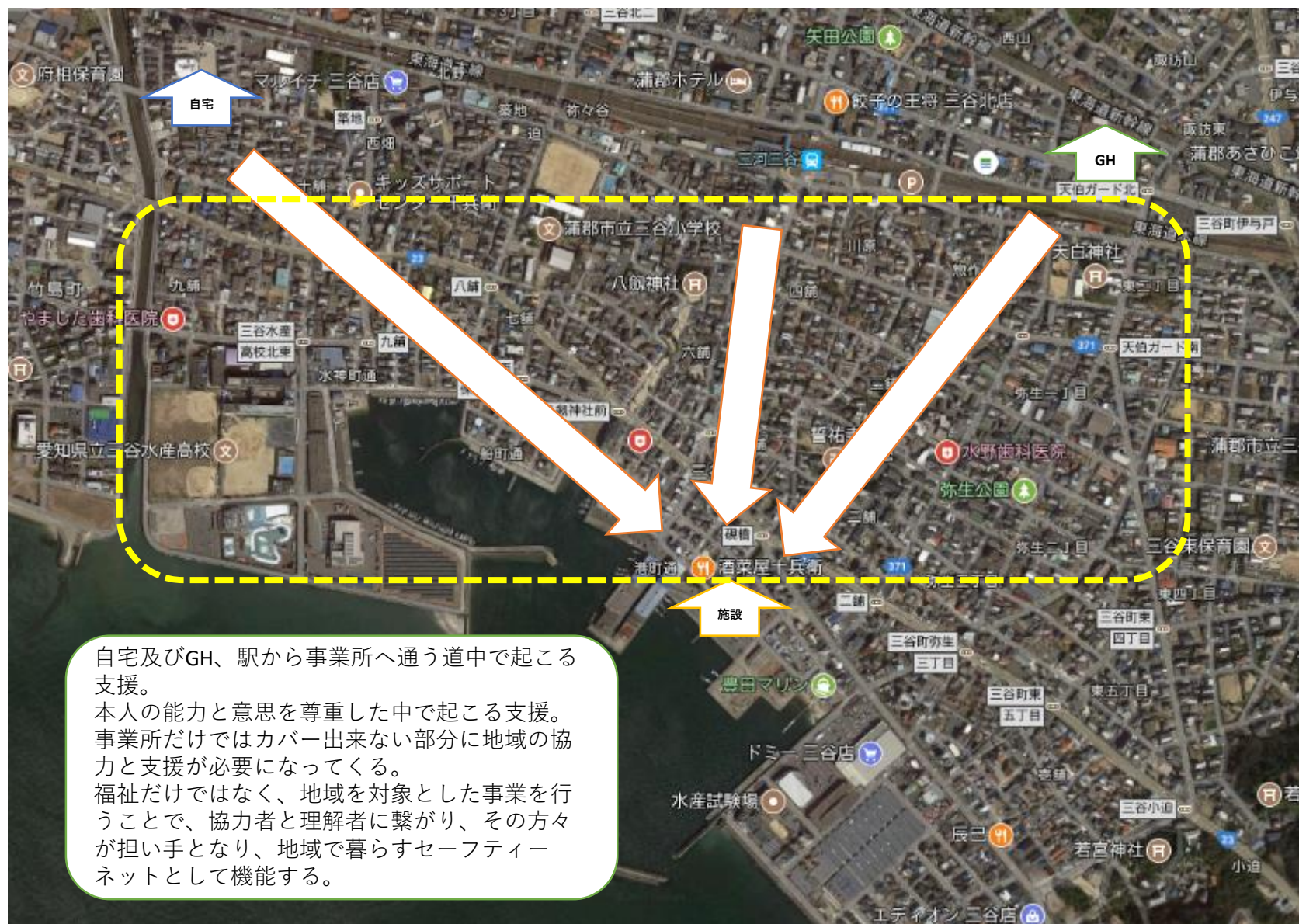


RAKUSHO_R30125



地域×福祉の必要性

地方における地域支援の現状



地域×福祉の必要性

～なぜまちづくりが必要なのか～

障害者施設の立上げ準備。

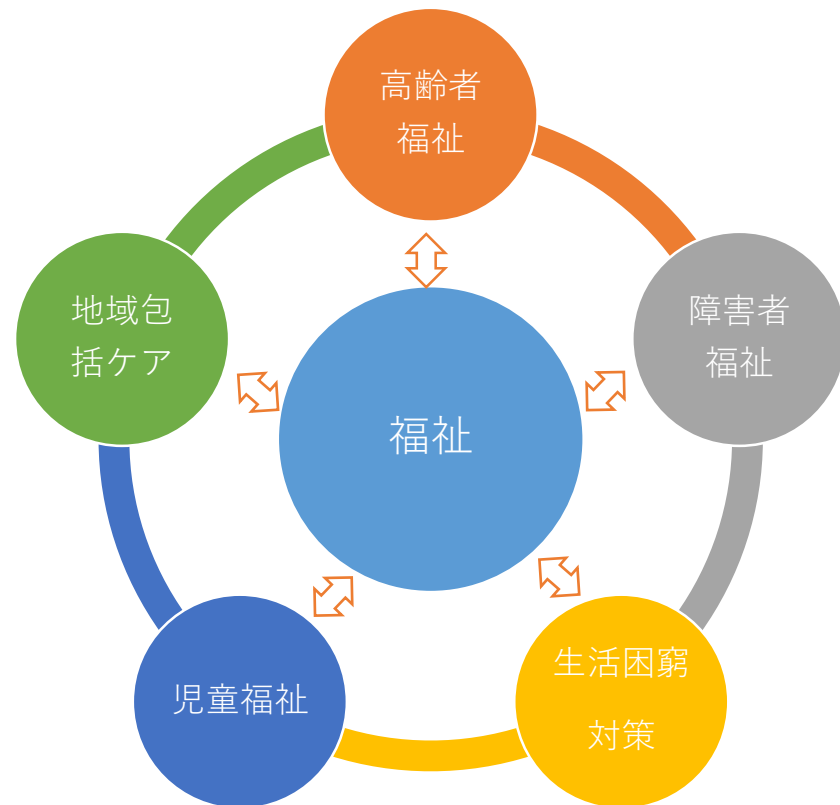
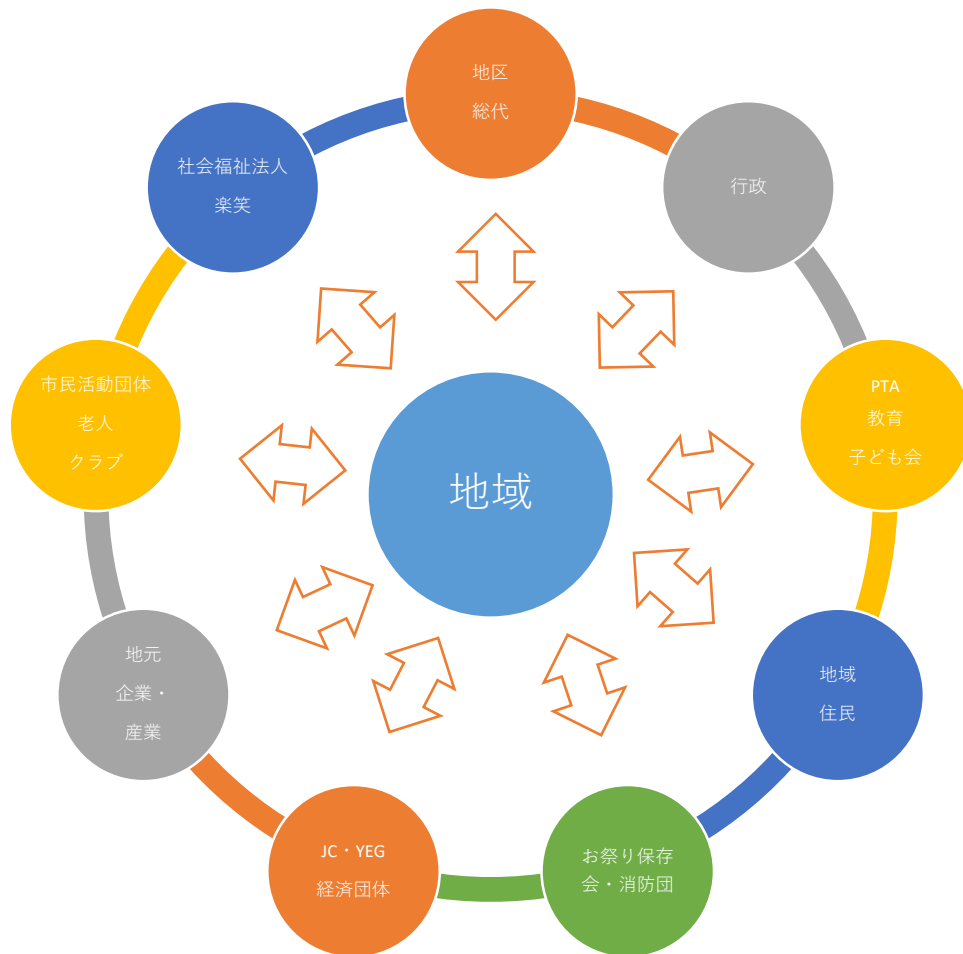
でも、地域の方から思わぬ反応が・・・。



治安が悪くなる。
障害者は三谷にはおらん。
誰が責任を取るんだ。
全力で反対される。

トドメの一言。
大変なのは障害者だけ
じゃないぞ！

地域を中心にすることで、自分ゴト(関心・共感)に考え、街ぐるみの展開が出来る



地域×〇〇 地域には、無数の構成要素がある。
掛け合わせることで、関わる構成要素が増え、大きな波及効果が生まれる。

地域合意の必要性

～この事業がなぜ地域に必要か。ニーズをカタチ(事業)に変える～

NPO法人設立当初(2007年～2013年)、個々の地域ニーズを組み合わせて事業化。

地域ニーズ

福祉ニーズ

事業

- ・主婦の働く場所
- ・地域の人が集える場所
- ・子ども達のお使いの場所



- ・障害者の活動の場所
- ・障害者の理解啓発



パン工房
就労継続支援

- ・漁港振興
- ・地場産業の担い手
- ・団塊退職者の働く場



- ・障害者の工賃UP
- ・障害の複雑化



干物屋
就労継続支援

- ・のこぎり屋根工場を残したい
- ・介護保険のお世話になりたくない

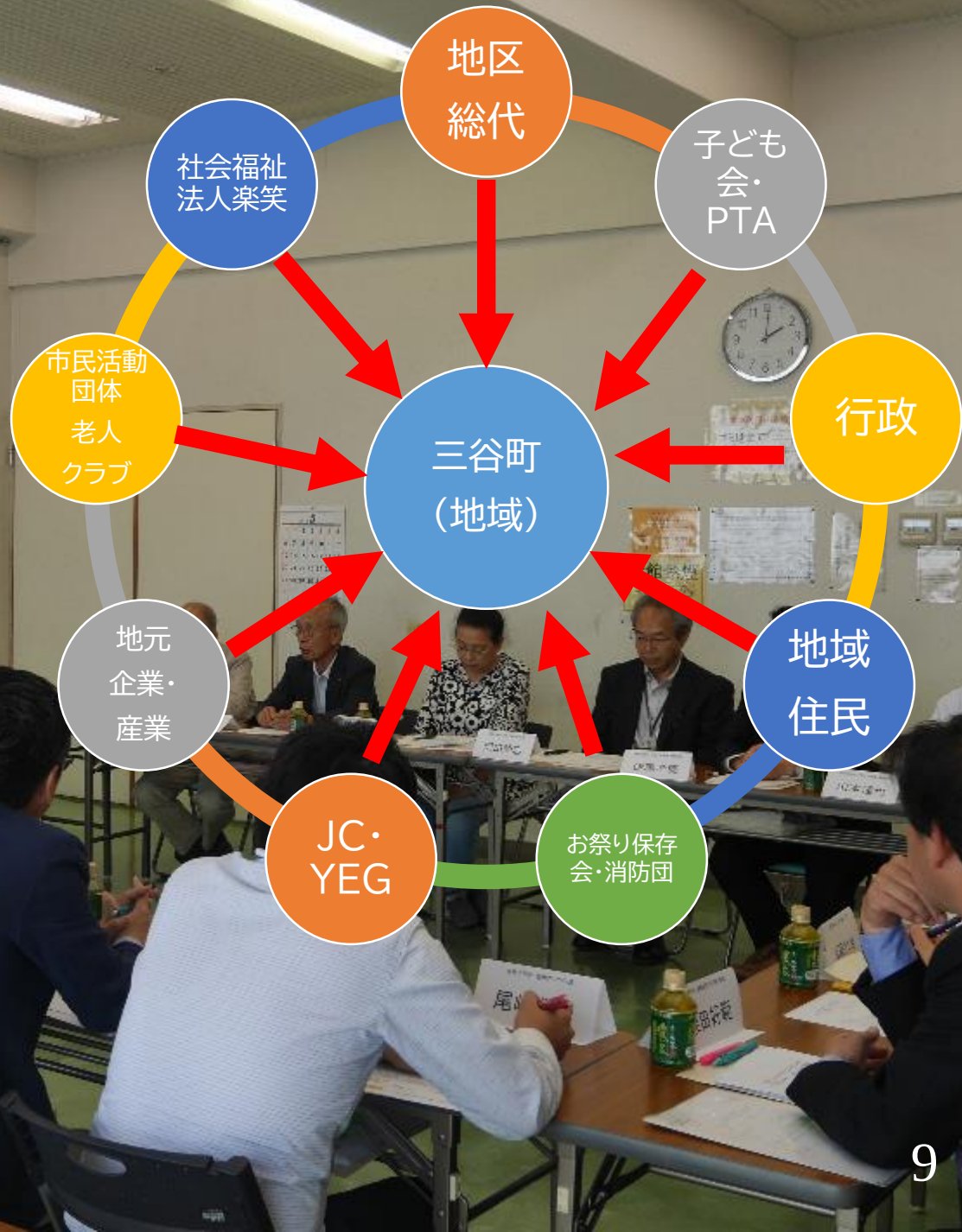


- ・障害児のあずかりの場
- ・地域との交流拠点



繊維工場活用
放課後デイ
サロン

事業構築ワーキンググループ
(2014年WAM助成事業より)
地域の困りごとや課題をそれぞれの
立場が持つリソースを活かす場とし
て地域全体で意見交換

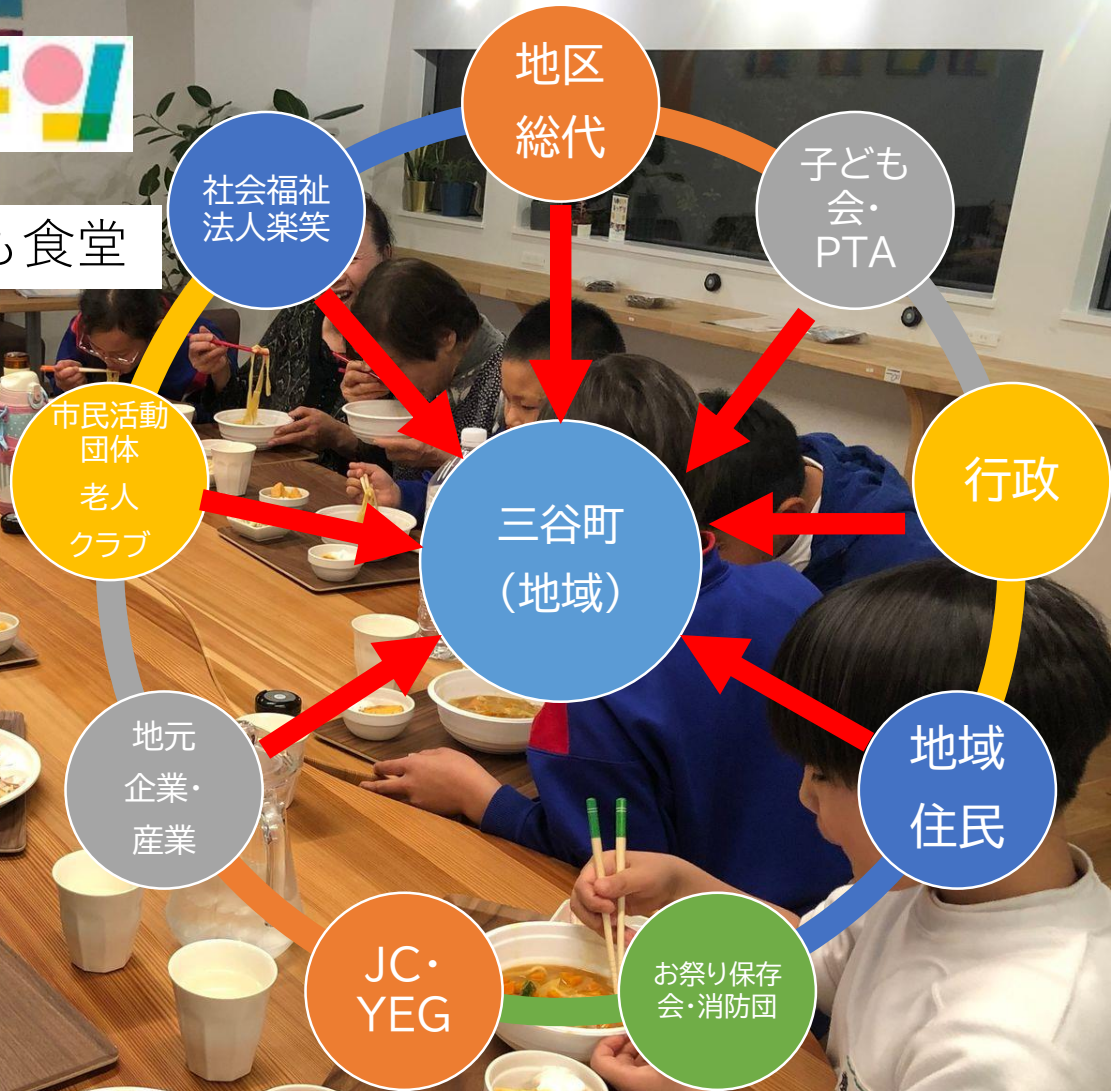
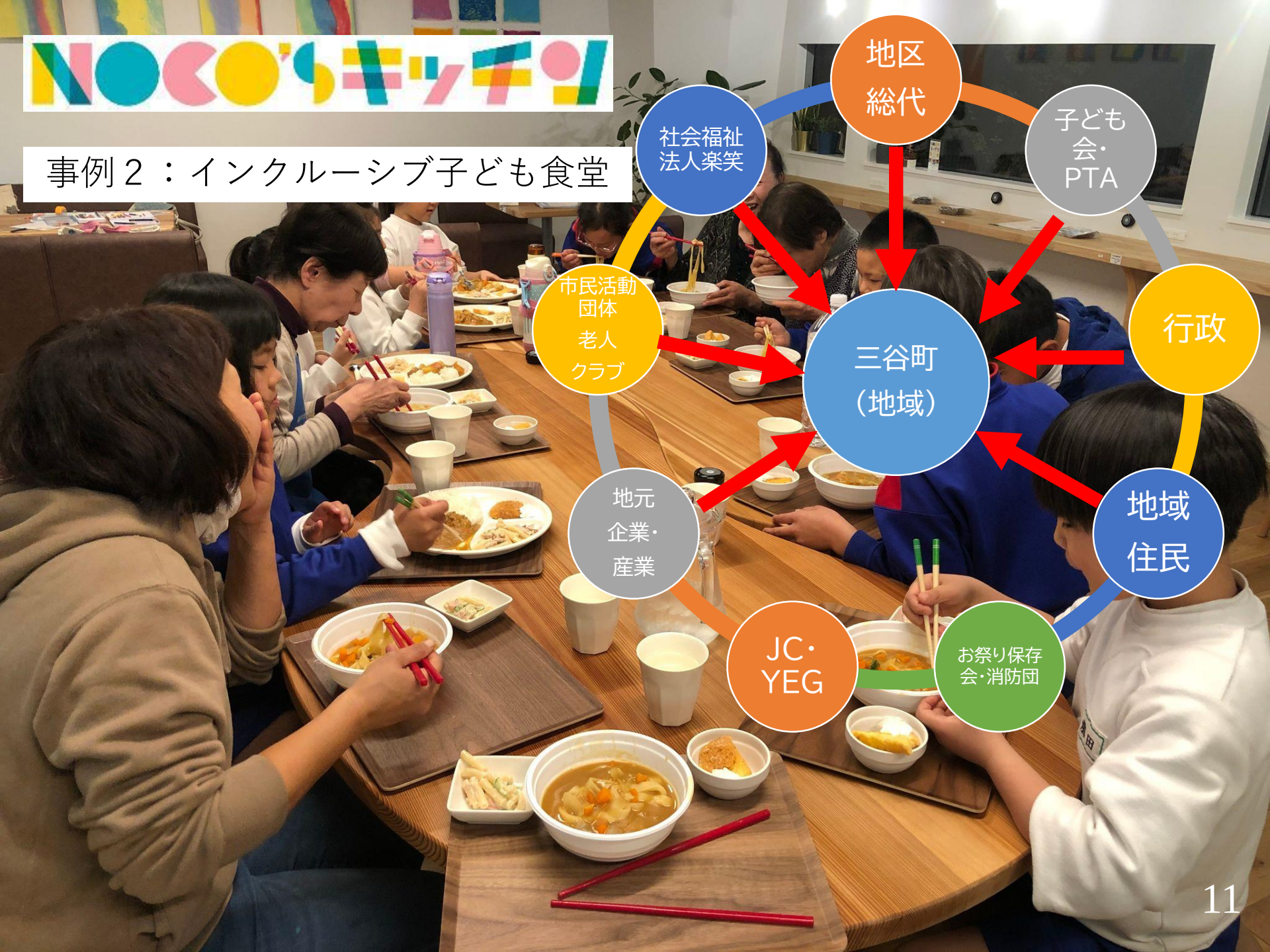


事例 1 : 高齢者の通いの場

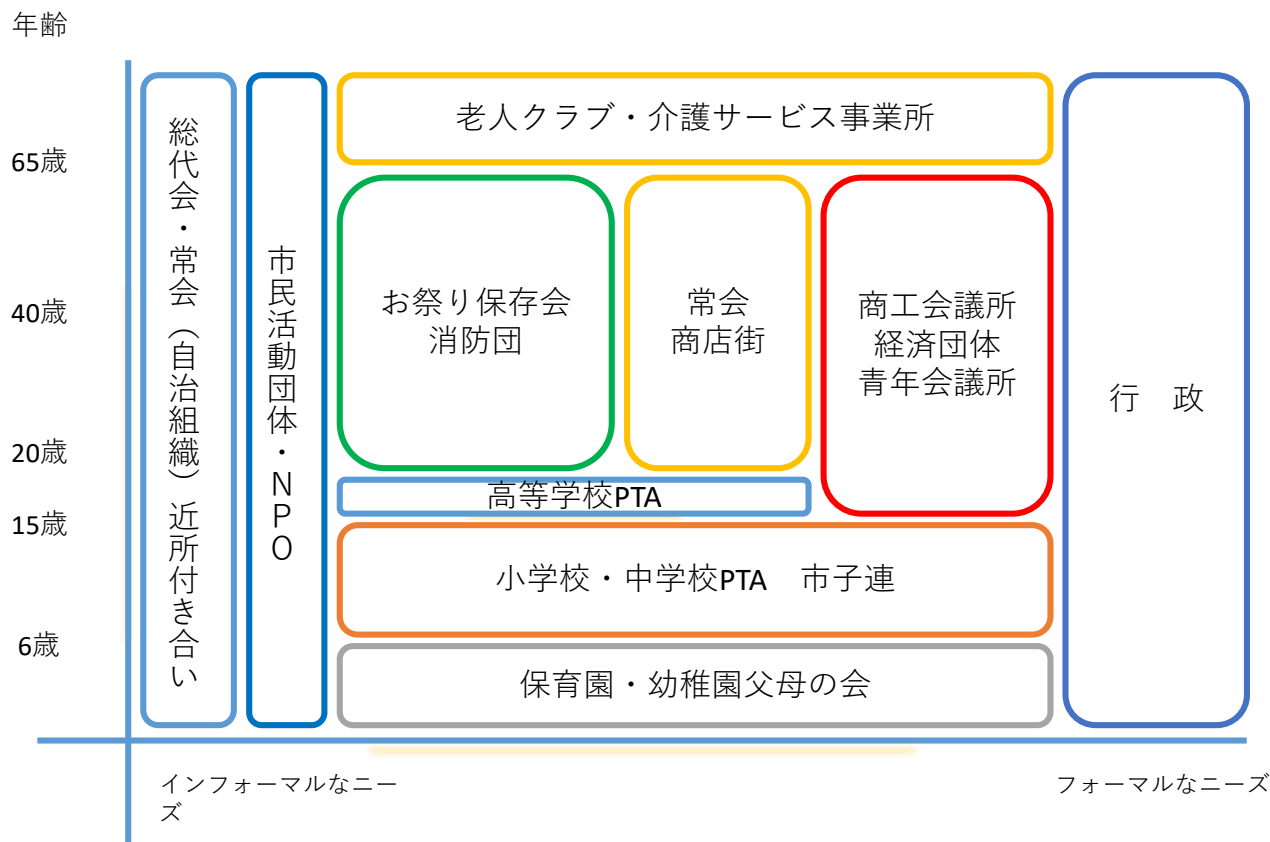




事例 2：インクルーシブ子ども食堂



地域の想いを知るには



地域における福祉関係者以外のステークホルダーと繋がる事が大切。
決して代表自らが動くのではなく、職員、パートをはじめとする法人に関わりのある方を通じて繋がりを持つ。

そこで大切なのは、**法人理念を組織内で合意できているか。**

なぜ、楽笑が地域向けの事業を行うのか。

楽笑の法人理念

「障害のある方もそうでない方も、**地域で暮らし続ける事**が出来る社会（まち）づくり」

本質的価値

「安心して心豊かな暮らしができる」

→社会（まち）づくりの最大の敵は「**無関心**」

その無関心を関心につなげ、「**共感**」を生むには、

- ・人づくり（意識を変える事）
- ・仕事づくり（役割を明確にする事）が重要

→（共感を生む）手法として、

子ども食堂、〇〇マルシェ等があり、障害のある方が地域で暮らす、**社会的価値**と**経済的価値**が存在する。

地域(*community*)の中で事業を進めるにあたり重要だと思っていること。(まとめ)

□「福祉」を中心を考えるのではなく、「地域」を中心を考える！
⇒障害者が出来る、出来そうな仕事を探すのではなく、地域の困り事を担うという発想。とりあえずやってみることから地域の関係性が構築できる。

□地域の「他分野(非医療分野・非福祉分野)」と地域住民をどうやって取り組みに巻き込むか、一人一人が可能な範囲で参画できるきっかけづくりを行うかがポイント！
⇒そこから地域ニーズが見え、**背景と目的**を明確にして、相手に伝える事で共感を生み、**自分ゴトとして主体性の醸成**に繋げる。

□地域共生社会という言葉**を明確にする**！
⇒「**地域**」はどこか。「**共生**」は誰を指すのか。「**社会**」の目指すべきところは何か。